

学年	単元名	児童	場所	指導者
5年	分かり合うために	旭川市立緑が丘小学校 5年1組 29名	5年1組教室	野上大輔

1 単元で身に付けさせたい力と学習対象（ひと・もの・こと）の吟味

【研究内容1 旭川らしい学びを創造する学習内容の吟味】

本単元で身に付けさせたい力

**探究活動への
関心・意欲・態度**

- 様々な立場の人との関わりを通して、追究したい課題を設定する。
- 探究活動を通して、気付いたことや発見したこと、自分自身で考えたことをまとめて判断し、表現する。

**学習方法に
関すること**

- 問題状況における事実や関係を把握し、理解する。
- 課題解決を目指して事象を比較したり関連付けたりして考える。

**自分自身に
関すること**

- これまでの生活を見直し、学習の成果を自分の生活に生かすことができる。
- 自己の将来を考え、夢や希望をもつことができる。

**他者や社会との
関わりに関すること**

- 学級の仲間や様々な立場の人たちと協同して課題を解決することができる。
- 身近な人たちとの関わりを考え、よりよく生活しようとする。

【単元のテーマ】

共に生きる ～福祉って何だろう～

- 障がいのある方々やボランティア活動に取り組む方々との関わりを通して、すべての人が暮らしやすい社会についての見方・考え方を広げ、自分の暮らし方を改善していく。

【単元の学習事項】

- 第1次 福祉について知る ～疑似体験を通して、障がいと共に生きる生活を考える
- 第2次 障がいのある方々の生き方 ～障がいを持ちながら頑張っている人の生き方
- 第3次 サポートをしている方の思い ～本当の福祉観について自分の考えをもつ

ひと

- ・心身に障がいのある方
四肢の障がい、目の障がい、耳の障がいなど
- ・障がいのある方をサポートしている方
盲人ランナー伴走者
中途難聴者筆記サークル

もの

- ・様々な車いす
- ・アイマスク
- ・装具
- ・盲導犬
- ・アイススレッジ

こと

- ・社会福祉協議会との連携
- ・障がいに関する疑似体験
- ・障がいのある方々との交流
- ・ボランティアの方との交流

【重視する体験活動】

- 老人疑似体験 ○車いす体験 ○盲人疑似体験 ○障がいのある方々との交流会
- 障がい者ボランティアとの関わり ○実態アンケート調査活動

言語活動充実のための工夫

- 様々な立場の人と直接関わり、インタビューなど言語を介した交流を重視する。
- 人と関わって感じたこと、考えたことを言語化し整理する。その後、思考ツールなどを活用した協同的な学びの場を意図的に設定し、課題解決に向けた適切な分析やまとめが行えるようにする。

2 単元について

(1) 教材化にあたって

私たちの社会には、大人や子ども、高齢者、外国人、心身に障がいのある方々など、様々な人々が生活している。しかし、私たち日本人は、自分と少しでも見た目が違うところがあるだけで一歩引いて相手と接してしまったり、必要以上に意識してしまったりする傾向がある。それは、子どもたちの中でも同様に見られる傾向である。

現在、私たちの生活する社会の中に、身体に障がいのある方々が100人中、約3人の割合で生活している。その他の障がいも含めると25人に1人は何らかの障がいをもって生活しているという事実がある。高齢者も含めると、さらに多くの障がいのある方々が存在しているだろう。そんな社会を生きる子どもたちに求められているのは、まさにこういった自分とは異なる立場や環境の中で生きている人とも豊かに関わり、共に助け合って生きていこうとする共生の意識である。

様々な立場にある人と共に暮らし、共生していくためには、それぞれの人のよさや自分との違いを受け入れ、一人一人が生き生きと生活していくために必要なことを考えていく必要がある。互いに気持ちよく生活していくために自分には何ができるのか、どう暮らしていくべきなのかを探究していく必要があると考え、本単元を教材化した。



(2) 児童の実態

本学級の児童が生活している地域は医科大学病院やリハビリテーション病院など大きな医療機関が存在し、保護者、地域の方々の中にも医療関係の仕事をしている方が多い。何らかのサポートを受ける人々や支えている人々のことを比較的目にしやすい環境にある児童である一方で、「福祉」について関心をもっている児童はほとんどいない状況であった。事前アンケートの結果でも「福祉」という言葉自体「知らない」と応えた児童が70%を超えていた。障がいのある人のことで思い浮かぶことも「体が不自由でかわいそう」「大変そうだ」「車いすを使っている辛そう」などの回答が多く、実生活の中で障がいのある方との関わりがほとんどないためか、どちらかというとな面的想像で「障がいがある」ことにマイナスなイメージをもっていると言える。もしかすると自分とは少し違ったところのある人たちの存在すら実生活の中では認識していない状況かもしれない。他者の立場を理解し、互いに尊重し合うことの必要感も感じていない実態がある。



(3) 指導について

本単元では、様々な立場にある人との直接的な出会いを通して、1人1人の福祉観（共に生きるために大切なこと）を育み、自分自身の暮らし方を見つめ直すことを期待している。

特に、子どもたちにとって普段あまり接することのない障がいのある方々とふれあう機会を設けると共に、それらの人々を支えている人たちが、どんな思いをもって活動をしているのかに目を向けさせていく。人間同士が互いの違いを受けとめ、互いに認め合って生きていくということはそう簡単なことではないが、実際にサポートを受ける立場、サポートをしている立場の両面から共に生きるために大切にしていることを探究させたい。障がいの有無に拘わらず、人間尊重の第一歩は、互いにふれあい、理解し合うことと捉え、人と人との関わりやふれあいを広げることが単元の中心にすえて指導に当たる。

3 単元の目標

- 障がいのある方々と共に生きることや福祉について考えることを通して、自他を尊重する意識をもつことができる。
- 信念をもってボランティア活動をしている方々の思いにふれ、共生に対する見方や考え方を深めると共に、社会の一員として、自己の暮らし方を考えることができる。

4 評価規準

(1) 単元の評価規準

探究活動への意欲・関心・態度	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会へのかかわりに関すること
<p>○障がいのある方の気持ちに近づき、その人たちの目線にたって自分たちの身の回りを見つめていこうとしている。</p> <p>○福祉とは何かについて追究するために様々な人と意欲的に関わったり、調べたことを課題に即して分析したりしている。</p>	<p>○疑似体験や人との関わりを通して、課題解決に向けた情報を収集し、集めた情報を目的に合わせて適切に整理・分析している。</p> <p>○整理・分析した調査結果をもとに、主張点をはっきりとさせた表現活動を行っている。</p>	<p>○他者への思いやりの気持ちをもつと共に、自分なりの「共生」に対する考え方を構築している。</p> <p>○自分の学習スタイルや学び方を自覚すると共に、それらのよさを発揮しながら学習を進めている。</p>	<p>○課題の解決に向けて、障がいをもちながら前向きに生活している方とふれあったり聞き取りをしたりする。</p> <p>○「みんなが暮らしやすい社会」に必要な事柄を見つけ、それに関する情報を集めながら、どんな社会にしていけばよいか考えている。</p>

(2) 学習活動における具体的評価規準

単元(次)	探究活動への意欲・関心・意欲	学習方法について	自分自身について	他者や社会へのかかわりにについて
第1次 ⑩	障がいのある方々の気持ちに近づき、その人たちの目線にたって自分たちの身の回りを見つめていこうとしている。	疑似体験を通して、障がいのある方々の暮らしについての情報を収集し、目的に合わせて適切に整理・分析している。		
第2次 ⑫	障がいのある方々と意欲的に関わり、その暮らしぶりや生活の苦勞について見つけ出そうとしている。	障がいのある方々との交流を通して、課題解決に向けた情報を収集し、集めた情報を課題に基づいて適切に整理・分析している。	自分の学習スタイルや学び方を自覚すると共に、それらのよさを発揮しながら学習を進めている。	課題の解決に向けて、障がいをもちながら前向きに生活している方とふれあったり聞き取ったりしている。
第3次 ⑬	ボランティアに取り組む方々と意欲的に関わり、福祉とは何かについて答えを導き出そうとしている。	整理・分析した調査結果をもとに、主張点をはっきりとさせた表現活動をしている。	他者への思いやりの気持ちをもつと共に、自分なりの「共生」に対する考え方を構築している。	みんなが暮らしやすい社会に必要な事柄を見つけ、それに関する情報を集めながら、どんな社会にしていけばよいか考えている。

次	過程	主な学習活動	教師の働きかけ～◇・評価～☆
一次 ⑩	<p>【課題の設定】</p> <p>【情報の収集】</p> <p>【整理・分析】</p> <p>【まとめ・表現】</p> <p>【課題の設定】</p>	<p>○事前調査 福祉に対する一人一人のイメージや学習に対する考え方を見取る。</p> <p>○「福祉」について考えさせ、関心をもつ。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「福祉って何？」 ・「障がいがあるってどんなこと？」 <p style="text-align: center;">共通課題①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">福祉ってどんなこと？</div> <p>○障がいをもちながら生活することについて、より関心を深めるために、全員で疑似体験をする。⑥</p> <p>○全員で体験することで不自由な部分がありながら生活することの困難さや苦労を実感できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人疑似体験 ・車いす体験 ・盲人体験 <p>○疑似体験の気づきを整理し、【体が不自由】な生活についての自分なりの考えを明らかにし、自己評価をする。②</p> <p>○互いが感じた「体の不自由さ、生活の様子」について交流し、共通点や相違点を見出す。また、それらの人々と自分との関わりを振り返り、この後の学習についての意欲を醸成する。①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 体に障がいがあると不便なことが多く、何らかのサポートが必要だ！ 福祉とはそのサポートのことだ！ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・実際はどんな生活をしているのだろうか？ ・もっと困っていることはないのかな？ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">障がいのある方と実際に関わって、自分たちにできる福祉を明らかにしよう！</div>	<p>◇ 「障がい」や「福祉」に対する児童の意識をさぐるため実態調査を実施する。</p> <p>☆ 障がいをもちながら生活することについて考えようとしている。(発言)</p> <p>☆ 体が不自由な部分がある生活について感じ取ろうと課題意識をもって体験活動に取り組んでいる。(行動観察)</p> <p>☆ 体験を通して感じたことについて整理・分析し、表現している。(ノート)</p> <p>☆ 道徳や疑似体験を通して、体に障がいのある人の暮らし方について想像している。(発言)</p> <p>◇ GTに授業参加していただき次時につながる学習評価をいただく。</p>
二次 ⑪	<p>【課題の設定】</p>	<p>○障がいのある方との交流計画を立て学習課題を設定する。①</p> <p>共通課題②</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 様々な人と「出会い隊」を結成して、障がいのある方と交流し 今の自分たちにできる福祉を見つけよう！ </div> <p>○自己の学習プランを立てたうえで、出会い隊を組織し、互いの交流を重ねながら学習計画を確かなものにしていく。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ」その人に会いたいのか ・「どんなこと」を調べたいのか ・その人の生活の実際はどうか(仮説) ・「まとめ」をどのようにするか 	<p>◇社会福祉協議会の方に紹介していただいた障がいがありながらも日々前向きに生活している方々と出会う準備を進める。</p> <p>◇学習計画表を準備し、課題解決に向けての見通しを明らかにさせる。</p>

<p style="text-align: center;">二次 ⑫</p>	<p style="text-align: center;">【情報の収集】</p> <p>○障がいと共に生活する様子を教えてください、その方が取り組んでいることを体験させていただいたりするような交流相手を探す。②</p> <p>○地域の障がいをもちながらも前向きに生きている人々と関わり、福祉の考え方について調べたり、その方の取り組んでいることを一緒に体験したりする。②</p> <p>○予想される交流相手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケットをしているAさん。 ・車いすラグビーのBさん。 ・中途難聴者のCさん。 ・難病をもっているDさん。 ・目の不自由なEさん。 ・その他 <p>○調査・体験したことをもとに実際に障がいをもちながら生活している人についての情報を整理する。①</p> <p>○1次の疑似体験で感じた自分の印象と比較をしながら、障がいをもちながら生活している〇〇さんのことを紹介する「〇〇さん新聞」としてまとめ、自己評価をする。②</p> <p>○「出会い隊調査交流会」を行う。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが出会った障がいのある方のことを発表し合ったり、友達の調べた他の人の生活について比較したりすることで障がいのある方々の日常に対する見方や考え方を深めたり広げたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>障がいがあって不便なことはあるけれど、大体のことは自分でできるし、逆に生きがいをもって暮らしている人が多かった。自分たちにできることは特になかった…。福祉は自分たちにはあまり関係のないことなのかな？</p> </div> <p>○今回出会った方々のサポートをしているボランティアの方を紹介する。</p>	<p>◇聞き取りや体験などの依頼も出来るだけ児童の手で行わせる。</p> <p>☆関わる相手の暮らしに関心を持ち、直接ふれあうことを通して情報を収集している。 (行動観察)</p> <p>☆具体的に関わった障がいをもつ方からその暮らしの様子について聞き取り調査している。 (行動観察)</p> <p>◇調査したことを自分なりに整理し、観点に沿って必要な情報を付加できるようにする。</p> <p>◇一人一人が自分なりの分析を加えた「〇〇さん」をまとめられるように個別指導を行う。</p> <p>◇【自分にできることとは】というテーマを設定し、自分の体験を根拠に話し合わせる。 ☆調査や考えの交流を通して福祉に対する見方・考え方を深めている。(発言)</p> <p>◇ボランティアの存在に着目させ、課題の更新を図る。</p>
<p style="text-align: center;">三次 ⑬</p>	<p style="text-align: center;">【課題の設定】</p> <p>○ボランティアの方との交流計画を立て学習課題を設定する。① 共通課題③</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>様々な人と「出会い隊」Ⅱを結成して、ボランティアの方と交流し自分たちにできる福祉を考えよう！</p> </div> <p>○自己の学習プランを立てたうえで、出会い隊を組織し、互いの交流を重ねながら学習計画を確かなものにしていく。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ」その人に会いたいのか ・「どんなこと」を調べたいのか ・その人の思いや願いはどうか(仮説) ・「まとめ」をどのようにするか 	<p>◇社会福祉協議会の協力を得て人材の紹介をうける。</p> <p>◇社会福祉協議会の方に紹介していただいたボランティアの方々と出会う準備を進める。</p> <p>◇学習計画表を準備し、課題解決に向けての見通しを明らかにさせる。</p>

【情報の収集】

【整理・分析】

【まとめ・表現】

- ボランティア活動に取り組む人々と関わり、福祉の考え方について聞き取り調査を行う。③
- 予想される交流相手
 - ・スキーワックスマンの○さん。
 - ・盲人ランナー伴走者の△さん。
 - ・アイススレッジボランティアの□さん。
 - ・障がい者スポーツ支援の☆さん。
 - ・点訳朋の会の◇さん。
 - ・要約筆記サークルの☆さん
 - ・その他

○調査したことを基にサポートする人の思いや願いについて情報を整理・分析する。②

- 「出会い隊調査交流会」を行う。【本時】①
 - ・自分たちが出会ったボランティアのことを発表し合い、福祉についての見方や考え方を深めたり広げたりする。

福祉は、障がいのあるなしに関係なく、困っている人がいたら助けてあげる。誰かのために役に立つ行いをいつも心がけることだ！

○調査交流会で交流した「福祉」の考えを基に『共に生きるために』というテーマで意見文を書く。②

○「共に生きるために」意見交流会を開催する。①

○学習のまとめを行い、学習の自己評価をする。①

◇聞き取りや体験などの依頼も出来るだけ児童の手で行わせる。

☆関わる相手の思いや願いに関心を持ち、直接ふれあうことを通して情報を収集している。(行動観察)

◇調査したことを自分なりに整理し、観点に沿って必要な情報を付加できるようにする。

◇一人一人が自分なりの分析を加えた「自分たちの考える福祉」をまとめられるように個別指導を行う。

☆調査や考えの交流を通して福祉に対する見方・考え方を深めることができる。(発言)

◇単元全体を振り返って、【共に生きるために】というテーマでノートに振り返りを行わせる。

☆学習したことを意見文にまとめることを通して、福祉に対する自分の見方・考え方を広げ、深めることができた。

◇それぞれの考えや新たな課題を交流し、学習を終える。

6 研究との関わり

(1) 児童の福祉観の変容を生み出すために、ひと・もの・ことを吟味する・・・【研究内容1-(1)】

様々な立場の人と関わることで児童の福祉観を広げる。

本単元は、学習指導要領に明示されている「国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動」の中の「福祉」に焦点を当てて具体化したものである。

事前調査で「福祉」という言葉を知っているか？という問いに対して「知らない」と答えた児童が大半を占めたように子どもたちの生活の中に「福祉」という言葉はあまり意識されずに存在している。

しかし「福祉」は、決して難しいことではない。日常的に誰もがやっている「したいけど、どうやっても無理なことを、ちょっとだけ手伝うこと。」「ほんの少しの思いやりや親切にできること。」が福祉の第一歩である。

この根幹にある考え方を子どもたちに実感させていくことが大切であり、それが子どもの福祉観を広げるということであるとおさえた。

そこで、本単元では、子どもたちがより福祉を身近に感じられるように、様々な立場の人と直接関わることを重視した。

実際に障がいがありながらも日常生活を送っている方々と関わる場面では障がいがあるだけではなく、自分なりに目標をもちポジティブに生活している方々に出会わせる。大体の日常生活は自力で行え、それだけではなく自分の趣味や活動をアクティブに行っている方々とあえて出会うことで、障がいがあることのハンディキャップや不自由さなど子どもたちが抱きやすい「弱者」のイメージを払拭させていきたい。

その後、ボランティアという形で障がいのある方々と関わりをもつ人たちとも出会わせていく。サポートする側の方々がどんな思いをもってその活動に取り組んでいるのか、大切にしていることは何かについて直接お話を伺うことで、一人一人が思い描く「福祉観」が更に大きく変容することが期待できると考えている。

(2) 主体的に学び続けることができる単元構成の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **【研究内容2-(2)】**

子どもの思考を連続させるために、探求のサイクル、特に整理、分析の過程を重視する。

本単元では、子どもたちが、学習活動に価値を見出し、自分ごととして本気で学習に取り組んでいけるよう、探究のサイクルを強く意識して単元を構成している。『福祉』というテーマからぶれることなく学習を連続させるためにも、課題が子どもの思考の流れに沿って更新されるように体験を軸とするとともに、調査活動後の【整理・分析】の過程を重視し単元を構成した。

また、探究的な学びを支える一つの要素に協同的に学ぶことがあげられる。協同的な学びの場は目的に応じて多種多様な場面が考えられるが、本単元では、協同的な学びの場を重視している。

調査結果の交流を通して、互いの文化に対する見方・考え方を広げる。

自分の考えを広げるために、**友達**と意見交流を行う場面を調査終了後に設定する。子どもたちは、課題に沿って調査した結果をしっかりと整理・分析をし、自分の考えを明らかにしていく。それぞれが導き出した考えを必ず交流する場面を設定することで自分の考えと**友達**の考えを比較したり、関連付けたりすることができる。このことにより福祉に対する見方・考え方により広がりをもたせることができるはずである。

(3) 学びを広げ、深める指導方法の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **【研究内容3-(1)】**

思考ツールを活用した学び合いにより、課題解決に向けて自分の考えが明らかとなる。

本時では、子どもたちが出会った人ごとに整理・分析を行った「福祉で大切なこと」についての主張をもとにした学び合いが展開される。

本単元のテーマである福祉についての調査情報は、子どもが自分の体験や聞き取り調査によって収集してきた主観的な情報であることが予想される。おそらく言語化された情報をもとにして子どもたちは、課題解決の糸口を探るはずである。この時の分析は、比較・類推・関連付けなどの考えが中心となる。

7. 本時の授業

【研究内容3 確かな力を付ける指導方法の工夫】

(1) 本時の目標

- 「福祉」について話し合い、福祉に対する自分の見方や考え方を広げることができる。

【探究的な学習への関心・意欲・態度、自分自身について】

(2) 本時の展開【35時間扱い 31/35】

主な学習活動	□教師の働きかけ◆評価
○課題の確認をする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 「出会い隊」の調査結果をもとに、福祉について考えよう。 </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人、自分の出会ったボランティアの方の思いや願いから考えた「福祉で大切なこと」を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールを用いてそれぞれの調査内容を分析し共通性を明らかにする。 ・グループ内で「福祉で大切なこと」についてまとめる。 ○「福祉で大切なこと」について根拠を明らかにしながら、自分の考えを表現し、話し合う。 ○それぞれの意見の共通点や相違点について話し合う。 ○「福祉」について、自分なりのまとめを行う。 ○「福祉」についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ グループでそれぞれ出会った人の話を手がかりにして「福祉で大切なこと」について話し合しましょう。 □ 意図的に構成されたグループで出会ったボランティアの方の思いを交流させる。 □ 今日みなさんの調査結果をもとに「福祉で大切なこと」について話し合います。みなさんが見つけ出した福祉の大切さとはどんなものでしたか？ □ それぞれ出会った人はちがうけれど、何か共通点やつながりを見つけることはできませんか？ □ 今日の話し合いを通して、【福祉】についてもう一度ノートにまとめましょう。 ◆ 他者への思いやりの気持ちをもつと共に、自分なりの「共生」に対する考え方を構築している。(ノート・発言)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> まとめ 誰かのためだけでなく、自分のためにも人の役に立てることをするのが福祉。相手がどんな人であっても困っているなら手を貸してあげる。それだけのこと。 </div>	

(3) 本時の評価規準

◇ 評価規準の具体（評価方法～発言・学習ノート）	
十分満足できる	仲間の発言と自分の考えを比較しながら共通点や相違点を見出し、福祉についてより深いとらえ方をしている。
おおむね満足できる	仲間との学び合いをもとに、福祉で大切なことについての考えを広げたり、深めたりしている。
努力を要する児童への指導	出会ったボランティアの方の話を想起させながら福祉で大切なことについて自分なりの考えをもてるようにさせる。